

ZEN

全道展機関紙

NO. 7

全道展機関紙“ZEN”第6号 昭和56年2月28日発行
 発行所 全道美術協会 事務局 千061-21 札幌市南区澄川6条12丁目
 渡会純价方 T 011 (581) 2528
 印刷 中西印刷株式会社 011 (781) 7501
 編集委員 青木 淳子 岸本 裕躬 坂原 チエ
 佐藤 靖 谷口 一芳 久守 昭嘉

〈搬入〉搬入点数、油絵六五四点、版画九五点、彫刻八〇点、工芸七八点、計九〇七点、前年に比べて、各部門共に若干減となっているが、つぶよな作品を少くしぼって、しか

第36回全道展報告

も必要以上の大作がなくなつた。部門別のおからない作品については本人が（絵、彫、版、工）決めて目録に記入してほしい。また、絵画の上下の判明しづらい作品について、必ず



第36回全道展特集

全道展入選者作品寸評	2
全道展・図録・ZEN等への 意見、要望、質問など	7
消息・近況	7
住所変更・訂正・お知らせ・募集	8
全道展関係展覧会案内	8

出品票を右上に文字上下合わせて貼って矢印も記入してほしい。点数の不明者がいた。

〈搬出〉例年と異り最終日を避けて平日の昼間の時間帯としたため本人搬出で不都合の人も多かったと思われるが、若干の引取りに出来ない入選者もいた。万一来場できない時は、必ず会場の係に連絡のこと。着払返送。

〈審査〉第一次は部門別、第二次入選決定は全会員で審査をする。一つの傾向にかたよることなく、あらゆる可能性と佳作を重視して審査、やたらと応募点数が多かったり、大さばかりの出品傾向がなくなり、60号以下で大作より良質の作品は入選となり、特に今年は、100号以下の入選作が増えたと思う。常時入選者や受賞経験者に対しても厳しい裁断が下り激論のたえない三日間であった。入選点数、絵画九四点、版画二二点、彫刻三四点、工芸三二点計一八二点、で昨年の記念展より合計で二〇点減の狭き門であった。

〈会場〉昨年より二〇点の入選減ではあつても会員会友の増加ではほぼ同じ会場となりしたが、大部屋を細分化してパネル多用の長壁面にしたため、二段掛けが少なくなった。60号以下の柱や隅掛けは現会場の狭さでは断腸の思いで行なっている。会員作品の分散も検討課題。工芸の独立した部屋が設営できたのが長所といえる。

〈会期〉昨年の一万人に近い九千余人の入場があり、六月会期のよさを示している。来年は、会場変更になるとすれば、はたしてこの数を維持できるかどうか未知数である。道内公募展のトップを切る会期と質のよさを誇る全道展の試練として次回展に努力したい。

第36回全道展

入選作品寸評



〈絵画〉

梅津薫「建築現場にて」高度な文化と経済発展の中での画想である。画面構成は面白いがカメラを持つ人物の作家の意図が稀弱なのでは。渡辺通子「眠る母子」重量感のある母親のモデル対角線構図を見せて安定感の中にムーブメンがあり前回より好感がもて

る。横山正義「破舟」荒々しいタッチで画面を盛りあげる意図は出ているが、少々力み過ぎて海鳴りが、消された感があり筆圧を一考されては。西辻恵三「とり」奨励賞。濃密な画面は美しく色面構成も堅固であるが、空間が欲しい気もする。描き込まれたマチエルは魅力がある。渡辺嘉之「漁村」潮騒の音を感じるが、防風壁板の一枚一枚が均当な力で描き過ぎた感があり平板になったのは惜しい。由丸公紀「横たわる女」補色による画面構成は一見強烈に見えるが、描き込みが足りない。色彩のわりに熱っぽい感じが感じないのは如何。山本美登里「対話」幻想的で、ややエロチックな情感をただよわせて面白いのだが、女性の内的心情をマチエルにも色濃く効果つけてほしいと思う。佐藤良紀「北の漁夫」力強い画面構成、ブルーの扱い方は美しい、漁夫の手のヴァーミリアンの線が象徴的で共感を呼ぶ。脇坂裕子「ふるさと」女性らしいリリズムと静謐な感情が測々と伝わり好ましい作、画面左の立樹が若干強い、ルーラ描法のせいか。輪島進一「イカルスの墜落」繊細な叙情性は昨年の受賞作家としての力量を見せている。ものうい色調での女性像はイメージである。深瀬寛「DISSCO」昨年の連作でもあるよう

で群像に面白い空気をただよわせている。左空間の赤色面にも言わすマチエルに一考したらと思うのだが。林教司「月と羅漢」単純化された構成の中に現代の不安を凝縮させた佳作。毎回興味をもって見て

いるが新しい展開を期待する。三浦正子「海の詩(1)」色はひかえ目でよくついているし、物質感も見事、構成も堅固である。山本美智子「錆びた船Ⅱ」破綻があつて稚拙なところがおもしろいが船の面の関係等きびしく見てはどうか。佐藤フサ子「人物」奨励賞。地味な落ち着いた色彩、人物の解釈はよい。バックに人物ほどの神経が欲しかった。高橋正敏「母子像(マヌカ)」奨励賞。昨年の作風と一変、緊密な構成、色のつきもよく神経が隅々までゆきとどいて佳作。多田襄「横たわる」手馴れた感じの作品だが人物が浮いて見えるのが残念、人物と床の関係が不明確である。安易に絵づくりをしない方がよい。菊地章子「独楽の風景(3)」写真から脱却、色彩、タッチが的確に独楽の動きをよくとらえて抽象化に必然性が感じられた。中丸茂平「最終の楽園A」奨励賞、二枚の落葉となためにさしこむ人影の構成で作者独自の詩を唄いあげている佳作。土のぬくもり、時間を感じるから不思議だ。矢元政行「北の道化師Ⅲ」卓上の品々は素直に描かれていてよいが肝心の人物が余りにも概念的ではなからうか。福井のばら「裸婦」バックに工夫があつて広がりを感じられる構成は賛成、ただオツユ描きの色が濁って見えるのが惜しい。絵具を直接つけて描くのも一方法である。高木多美子「猫と女(A)」キュービック風の美しい作品、色が少し軽い感じがした。黒田邦祐「群像80-A」渋い色調で量感のある人物の組み合わせに隙がない。だがいまひとつ新鮮さ、若さを感じさせて欲しい気がした。

中橋修「使者を待つC」独特な色彩と技法で美しい画面だが、単に甘い絵にならないよう心構えが必要でないか。野村美和子「MAKIE II」力強いタッチで好感がもてる。絵が大きく見えてよい。全体に黒く見える色彩を考慮したらよい。吉田純子「立像NO・3」美しい新鮮な色彩でよいが全体に粗雑で描き足りない気がする。もう少し鋭く切り込んでほしい。阿部ススム「フォルムの立像NO・AI」ブルーが美しい。手の込んだ手法に注目したが類型化が心配。このような手法でなく表現できないか。

武田忠子「しじま(A)」佳作賞。卓上静物の上部に人物を配し俯瞰の知的構成と深みある色彩は静物画の多い中で注目される作品。福島孝寿「公園2」神田会員が印象に残った作品として掲げている。明確に作家の意図が伝ってくるのは並でない力量。期待する。福井路可「男のいる(2)」奨励賞。制作意欲は実験を生み可能性を秘めている。深い空間に人物が浅く見えるのは素材のもつ弱さか。高橋靖子「静物(B)」奨励賞。紅色の乾いた肌がソフト。立体的な背景に小器物が平面的に並ぶ実体と虚の関係が心象的。期待する。安木尚博「夜の女たち」透明な青に黙した女性群像のイメージは成功している。単純化された曲線の繰返しは画面を単調にした。土井善範「待ち合ひ室(B)」描き込まれた肌から生れる色や形も強く群像の表情もユニークで魅力的。画面が平板なのが気になった。矢下瑛子「夕暮れ」地味だが淡く品のある色彩。線で囲まれた人形も上質である。それだけに背景の処理にもう一息欲しいところ。石塚絹「ポットのあな静物(Ⅲ)」レモンイエローの明快な空間に日常器物が配置されて詩もある。ものの実在性がこれからの課題か。福井バク「座像(A)」胸から手足に流れる線が美しい。頭部が孤立している。ピカソのデッサンで画紙が鉛筆で破れていたのを見た。大沢あい子「クロース(D)」連続模様が現代的な錯視を誘うが絵画性に弱い。レモン一個の存在感がある種の世界を暗示している。斎藤嗣火「惑(1)」ギリシャの劇的なレリーフを思わせる群像の動きに迫力がある。人物が石のように見えるのが絵を重くしている。

池田緑「アリス、夏の終り」壁に掛った物に且つての思い出がよぎる。リアルに表現された素直な作品、偶然性にたよらずに今後が楽しみ。浅川茂「廃物」奨励賞。丹念に彩色した作品、構図が少々単調、画面に変化があると一段と面白味のある作品になるだろう。今西直人「牛C」分解し構成したキュービズム的な作品になかなか手馴れた手法で今後期待出来る作家である。中島蔵「家族」ここには作者の人生の旅路を感じさせる。色がうるさく。整理すれば一層人生の哀感が強調されるだろう。斎藤隆博「父と子」の題名だがここには家族のやすらぎと明日への希望を感じさせる。彩色もなかなかよい。井上利則「女」やや

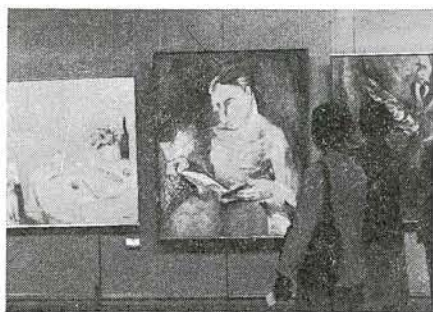
稚拙さを感じるがそれが作者のねらいかも知れないが、腰のあたりのデッサンが不十分、色も生の感じがするが如何、皮膚感に留意されるというと思う。真野寿子「朝市にて(1)」語り合う人物の体や手にデフォルメされた労働者の逞しさを感ぜさす。色調も地味ながらなかなかよい。楓塚順子「孫たち(2)」女性としては大胆な力強い作品と思う彩色もよい。今後期待される作家として注目したい。岡野修己「移転」壁のビラとか自転車も少し大きくてもよいのではなから題名からくるイメージが曖昧で作品を弱くしていないだろうか？一考を要す。高野康平「出漁の日」線による構成はなかなかよい。上部の魚は説明的である。昨年の船団のような力強さを今年の作品にも見せて欲しかった。及川富雄「喊」暗い空漠の中に静止した人物像から打ちひしがれた姿は現代社会のすべてを代弁しているかのように感じられる。工藤善蔵「仮睡の家族」新会友 この作者は一貫して家族をテーマに描いてきたベテランと思う。今年の作品は一段と磨きのかかった佳作の一つ、広く深い思想性をこの作品から受けとられる。生の執着いや生の尊厳をこの作家は謳いあげている。

〔評〕前野昌市

やや破たんはあるが、同時に強引な筆勢が覇気を与えている。ただ空の解釈には疑問をおぼえる。中村静枝「献花」象徴的な画面構成で、黒と灰色の階調が美しく、しっかりと作品になっている。中西孝宣「静物」内省的な画面から作者の思索や感情があふれている。抑制された線と筆の運びは緊張感を生み、好きな作品の一つ。佐藤恵都子「残照」人物の解釈がはっきりしない。情緒に流れすぎではないでしようか。空間と人物とのせめぎ合いをもっと深めてほしい。田中ヨミス「沐浴」物語性の強く出された作品で、意図もはっきりしているが、色彩がぶくぶくなっている。木滑邦夫「やさしい中年男」人物の解釈は賛成だが、画面が脆弱になっている。もっと絵画的につつこんでゆく姿勢がほしい。川村雅之「人物B」人物をマッスでとらえ、大らかな画面作りが成功している。諸語なところが面白い。土屋千鶴子「牛と人IV」色面が美しくシャープだが、形態のとらえ方が概念的である。今後色面分割がパターンにならないよう期待したい。篠木由美子「青いリンゴB」色の変化がナイーブで美しいが、人物表現がセンチメンタルで甘くなっているのが残念です。

〔評〕高橋三加子

婦」審査の時の大作の中にこの作家の良い素質があるように感じた。エスキース的なこの作品にはやや気分がまかせたきらいがある。吉田康子「風の記憶」手前人物が風化してゆく様とほくはみだし好感もてた。今一つ後の空間処理にやや思いつきの嫌いがある。題名にとらわれ過ぎたのだろうか。渡辺千香子「乗る」正直ぼくにはこの作品の良し悪しが訴えてこない。現在のきみの造型用語であるならこの仕事を続けてもらいたい。松井多恵子「私の部屋」この作家は、自分の主張を強くもっていると思いたい。特に審査で問題に



好感がもてる。しかし、このモチーフに不可欠な止、動、重さを描く技術の未熟さだ。ロープの表現の張りつめがない。佐藤公一「北辺想B」この作家は自分のモチーフも手順もきまりつつあって、今更どころかもう一つのことでもない。しかし画面にあられ程の小道具を取り揃えなければ絵にならないのだろうか。今後をみたい。熊谷充恵「鳥の詩II」ややとすると「鳥の詩II」の題名通り情緒的な作品におちいり易いのだが、鳥に対する作家の冷静な制作態度がよくうかがえる作品である。宇佐美薫「鳩」この作品は僕の偏見かもしれないが、この会のある類形をみるのだ。画面は「鳩」とあるが描けていない。人と鳩のぬくもりがないのだ。零細な気の絵づくりは今後が不安だ。横山昭子「卓上の魚」今展で多数の公募作品がある中で、対象を素直にとらえた作品は以外に少ない。良し悪しの結果がはっきりと分るからだ。その意味から地味ながら佳作といえよう。

〔評〕箱根寿保

可部谷弘美「室内風景B」構図大坦であり視覚的によい。繊細で描写力がある。上隅の人物は不要な気がする。船川照枝「木馬のある静物」色のトーンよし、筆触も独自なものを持っている。画面構成はもう少し思いついて作るべきである。本庄康伸「若草の室内」力作である。近代感覚よし、画面構成、色彩ともによし。無機質的なリリズムを感じず。長尾宇多子「静物B」絢爛たる色のハーモニーが美しい。女性らしい色感を持っている。画面も美しく今後に期待する。平岡文子「雪原早春」常連であるが、水芭蕉の上部の描写が粗雑であり残念である。前景のような心の入った処置であったら、まだまだよい絵になった。平岡正造「トドワラの詩A」彩度もう少し鮮明の方がよかった。トドワラの倒木の荒涼とした感じがよくでている。諏訪道子「野菊のある室内」色感も豊かで部分的に大胆な描写あり神経のゆきとどいたよい作品である。金沢実「作品A」簡略化された人体とそれを取りまく室内風景、色彩も構成も非常によし。好きな作品である。成田勇吉「黄香の集い」構図、色感共に年季の入った作品、マチエルなど色のつき堅牢である。側香代子「山村の物語」堅実に見つめ、素朴に愛情を持って物置を描いているが省略も必要である。羽山和男「作品」態3」人体のフォルム面白いしよく構築されている。絵具のつきがよくないのが心残りである。

〔評〕後藤庸也

大泉康子「私は見ている」清潔な白い抒情性に足をとめた。彼女の作品には毎年心象の投影がある。今年の作品「見ている」は空間が調子より沈黙しているか、歌い過ぎにより沈黙の方に。大橋弘子「旅情II」は気持は解るが自身の自分にオブラートをかぶせすぎ、対位する人物は類系化して命がない。造形的になることは自分が裸になることだ。安井タカ子「暗雲III」一種の社会に対する姿勢が創造の根元にあるのだが、もっと鋭く、もっと深く。モノクロームの色彩は存在の追求には悪くない。頑張れ。高島昌子「坐III」は

注目すべき感覚のストレートさがあった。デッサンを徹底してやること、そのあとに本当の自分が残るだろう。棚橋永治「剥製のある室内B」は長いこと抽象を描いてきたたかな戦士であったが、今年の作品を観て僕は因った。変貌がこんなに力弱く甘くは本当かなと思ってしまった。佐藤克教「都市No.7夏の終りにB」知性に満ちた作品であった。前回のグリを想はせるキューブの仕事を押し進めると翼を持つだろう。高橋永実子「風景A」良かった。更に喰らいつくこと、体を張って描いていくとバルールの問題にぶつかると。宮下淳「青き室内」力のある作家である。新しい波になるか、それとも類系化してしまうかひつさげた美学を厳しく押し進めよ。酒井俊行「女と静物」注目すべき作家、ジワッと毎年前進して来ている。しかし同系色は失敗がなさすぎる。危険な世界に大胆に飛びこめ。原田恭子「牛骨のある静物D」物を入れ過ぎ、空間と存在する物の関係に腰をすえて取り組むこと、絵がガタガタだ。道添宗敬「YOKO21」地に足のついた作品であった。人物といすのフォルムには良い感覚があった。ただ後の二本線は、この作品をまとめているが浅くした。空間を勉強すること。

「版画」—木版—
菱和子「氷紋昇華」奨励賞何よりも大画面へ取り組む作者の意欲を買う。当然の受賞（奨励賞）といえよう。技法も洗練されてきた。宝賀寿子「腐製園」今年はまだ少力が入りすぎて画面がかたくなったが作者のいろいろの角度から取り組む姿勢はエネルギーだ。木の瀬博美「想い……」作者の表現しようとするねらいが明確になってきた。画面の効果だけでなく自分の主張するものを強く押す方向へむいてきたからだと思ふ。田口正二「帯船地みちに自分のベースを守って進んでいる。中間色にあたる灰色の効果をもっとし工夫すると白黒の効果をもっと強まると思う。佐藤節子「北の大地・水のほとり」白黒の段階の力強さと素朴さを買う。黒の面積をもっと効果的に計算すべきである。瀬戸節子「遊園地II」発想が伸やかなところはいつも感心する。今年のように黒を使うのなら中心部全体を明確にする方が効果が上がる。川端祥夫「浮流」センスの良さは買うが、版画としての効果をもっと計算して、明るい部分も必要ではないだろうか。安定感がないのが気になる。〈評〉手島圭三郎—銅版—

杉浦篤子「人はみな時のヒロ」手堅い仕事になってきたが、構成がうるさい。もうひと皮剥いてすっきりした画面を期待したい。北川佳枝「ありふれた町—三つの屋根」身近なモチーフをテーマに連作するのはよいが、しっかりしたエスキースを土台にしないとつまらなくなる。佐藤まゆみ「アンコール」石畳を想わせた作品も、よく見ると音拾うような快いリズムを感じる。可能性を秘めた佳作。和田裕子「熊鷹」いつも素直に動物の生態を描写しているが、それだけに終わらない作家の眼が欲しい。原島典子「青いローソク」手慣れたメゾチントは水準をゆくが、どうしてこんなに色彩を重ねて工芸的にしなければならぬのか疑問。木原武子「冬」詩情漂う表現、今一つ内面に還元した作品をみたい。永井みよこ「Eulogie II」(新会友) 駆逐された技法は美事、空しさの表出を成し得たがエピソードに終わらないでは。岡本早百合「Green」意図は判るが理に走らぬ感性を望みたい。銅版全般にいえることだが、銅版の層の厚みを知ること。



色にもひと工夫。シルクスクリーンで唯一の入選作だった。この部門が特に厳しいのではなく、技法とイメージが織りなす綾でなければならぬ。大川幸子「スペイン幻想」魅せられた作品であった。この種の作品ではまだ鋭く量感を出さなければ弱い。三神ひさし「開かれなかった最後のページ」怪しい暖かさが聴えそうな佳品、筆が走って描かれることなく構築に一考を要す。〈彫刻〉永野光一「蒼空」彫刻技術的な巧さは評価できる。小品なりのスケールを感じないのは残念。自然との対話の中に自由な世界がある。竹林昌子「胸像B」理知的で細やかな神経は良いが構築的な面で不安が残る。特に凹部が悪い。又胸部が単調で必然性を感じない。三条美智子「女の首」ひきしまった量感には粗雑な感がある。彫刻は立体芸術であり末端まで神経を。中谷紀子「洗髪」全体的なフォルムは髪処理を含めて造形的であるが、細部が説明的になっているのがおかしい。松岡康夫「春の気分」情感的には納得出来るが全体として構築性に欠け、表面を研ぐ仕事も成功していない。「男の首」道新賞 細部の処理に問題が残るがストレートな表現は好感がもてる。川田静子「首」作者の精神性がうかがわれ、おおかたでしつとりとしている。着色のためか肌が鈍くなるのが欲しい。和田雅子「HISASHI」力強い量感が良い。細部の処理に工夫必要。髪部分はもっと研究

札幌時計台ギャラリー

—洋画材料専門の店—

OAK画材

札幌市中央区北1西3 仲通
TEL 261-8971

holbein アーティストピグメント

(ホルベイン専門家用顔料)

あなたの手で、油彩画、フレスコ画、テンペラ、日本画、水彩等の古典画法を再現できます。

—詳しくは最寄りの画材店で—
ホルベイン工業株式会社
北海道地区総代理店(株)布川

洋画材料

大丸藤井

セントラル

札幌・南1西3

を要す。高木順子「北の青年B」堅実な仕事ではあるが表面にとらわれすぎて若干うるさい。対象へのめりこみすぎの感がある。西山昇「Tの胸像」どこちなさは目立つが動きもあり力強い。頭部の処理が観念的であり、作品をつまらなくしている。増田ひとみ「立像」奨励賞 おおらかなフォルムで作者の女性を感じのびのびとした作品である。今後共細部にこだわらずに仕事を続けてほしい。小山澄子「初夏」のびやかな構成で良いが全体のバランスに難点がある。細部にとらわれない事。増田邦博「さいはここの女」フォルムとしては上向きで明るく好感は持てるが、首に必然的なものを感じないのはやはり失敗では。中田千「トルソII」フォルムのおもしろさは十分だが全体としてデッサン不足。未消化な面が多いので注意する事。今谷孝「胸像(恵子)」どっしりとした安定感はあるが反面動きがない。構成面での一考が必要。桑本伸子「シルヴィーさん」テクニクも実力のうちだが全体として、マッスとしての追求が不足。輪部が気になるのであったならもっとデッサンを重ねて見て下さい。堀悦「女頭部」対象へのめり込むような真自面な観察は好感がもてるが表面的なものにこだわらず。佐藤雅泰「無想III」木彫であるが粘土的な扱いが目立つ、それは決して悪いという事ではないがむしろ木を彫ろうという率直な姿勢がうかがわれる。顔などもその全体の調子の中で作られているし好感が持てる。川辺由紀「頭をかか

える女」頭をかかえる腕と肩、うまく一つの塊を意識の上型で作られている。しかしもう一つ未完成な重さが残っている。田中隆行「若い教師」何か小さくまとまったという感じ、髪は扱いもまずまず、首の後はもう少しモデルに忠実に。宇佐美篤子「座婦」そつなくまとめられているが何かもう一つ「カチッ」とした強さが欠けている。立っている足に力がなく弱い。この膝から足首にかけての緊張感があればもっと全体的にひきしまる。阿部俊夫「春光」新会友 木材の持ち味をよく生かした作品、そのシャープなフォルムが良い。



良い作品だと思ふ。着色に難あり少し損をしているように思ふ。池田譲「トルソ」どっしりとした安定感があるが、上体が少し貧弱だ、ウエストより腰に至る単純化にもう一息。二部黎「野人」木材を扱う技術はかなり達者、もう少し思い切った表現と仕事を期待します。高橋雅文「野州」総体のプロポーションは部分的にも確かな形をとらえている。しかし胸背中の筋肉、足などそれぞれ同じような硬さで目にはね返ってくる。本田泉「魅沙」佳作賞 部分的な処理に難を感じるがしっかりと骨組が作者の素直な造型意識を感じさせる。嶋守哲夫「毫」苦心の跡が伺える。首の切り方など粘土的な意識、扱い方である。渡辺行夫「二等辺空角型」幾何学的形態の中に何か有機的はだを感じさせ、わずかにゆれ動く様な頂点が面白い。花田正雄「遠心」木材のぬくもりを感じるが同じようなパターンが連続し全体をにぶくしている。彫刻的すぎさ、或はスキッとした強さも欲しい。田所陸雄母子像「子を抱く母親と子供との力学的なバランスは理解出来るが、顔は顔、胸は胸、腰は腰という風に作られていて全体のフォルムの統一がない。伊藤淳子「刺繍紋花生」平凡な造形であるが、表面の彫ったような文様は面白い。金子章「蒼い影」造形からみると大変面白い。釉色は深みがあり人目をひく作品です。井田孝二「線裂壺」口づくり動きがあり、櫛目と彩葉がおりしろいが全体の造形にいま少し

の感があります。小崎正司「象嵌草文壺」象嵌に大変苦労した造りがみられます。色調も良いのですが、画が少し硬い気がする。矢野博子「灰彩壺」ポリウムと安定感のある作品ですが彩葉に見どころがほしい気がします。高野陽子「早春」北海道に早く春のおとずれをと低下度彩で焼き上げているが作品に重みが薄い。横田恵子「灰彩花器」奨励賞 造形と灰彩がびつたり、安心して見られる作品です。しかし口づくりが弱い。増子美代子「伊羅保大壺」女性で大きな壺を造る事は大変な事だと思います。彩葉がきれいです。大きな動きを出してみたいかですか。佐藤孝子「線文象嵌六面壺」器面の装飾技法はすばらしいが口づくりの内面に時間がほしい。野田静江「灰釉風韻紋」全体のバランスからケズリかたがしやれている。大室ヒサ「均窯刻文花生A」カットした面とふくらみはいいのですが口づくりが弱い気がします。秋田清陶「方花生」四面作り、口づくり刻印の使い方がすばらしい作品だと思ふ。井上妙子「作品B」陶器の表面に櫛状のものでつけた線刻文様は面白いが釉薬掛けに研究されたい。坂口桂一郎「青磁独拾星文盛針」鮫肌状「かえらぎ」で焼かれた青磁釉柔らかい風合いのマット釉が生かされています。【評】押川 清

【評】押川 清
一 鈔物・木製品
中秋勝広「北の流れII」この作家は数年来北国の厳しい自然の中からモチーフを見出し出しており、金属のものつるとさ光沢とで良く表現している。今後はよりいっ

【評】押川 清
一 鈔物・木製品
中秋勝広「北の流れII」この作家は数年来北国の厳しい自然の中からモチーフを見出し出しており、金属のものつるとさ光沢とで良く表現している。今後はよりいっ

印刷の美を、私達は考えます。

中西印刷株式会社
札幌市東区東苗穂町505番地 ☎011(781)7501

緑の空中庭園に囲まれた
ギャラリー

大同ギャラリー

札幌市中央区北3条西3丁目
札幌大同生命ビル TEL 241-8271 内88

さんしんデザイン
良心的な製品

株式会社 松山額縁店
札幌市狸小路5丁目 TEL(代)251-9000

その発想の転換を期待したい。

関原範子「芳萌」佳作賞 めまぐろしく変化する現代社会の中で忘れられて来ている静を感じさせる作品である。七宝の技法とアクリルとを上手に使いこなしとめあげている。東堂亮之「珊瑚の囁き」アルミ鋳造の技法を上手に使った作品で、こまかな部分にも充分気を配った跡がうかがえる。工藤勉「融雪（ゆきどけ）」北国ならではの作品と見えた。自然をよく観察した作品にまとめあげている。四本の角柱が印象的である。下部とのつながりに一考を要する。六家敬吉「成長の過程」題名からは、時間的経過を作品にまとめあげていくような感じがしていると形自身もまとったのいい印象を受ける。今後の仕事にもっとも期待したい。

佐々木淳一「Barca...」角ばった作品で、じつと視ていると、いろいろのフォルムに感じられ、作者自身、この作品を作り上げた時の喜びが伝って来そう。武田文彦「悠久への詩」木を加工する技術は高く評価できる。作品に重厚さは感じられるが、もっと整理する必要があるのでは。藤枝勝雄「北の茜陽」古くからある組木の技法で現代風にまとめあげた照明器具である。光が入らなくても、それ自体が一つの完成された装飾品（作品）である。直方体からの脱皮を期待したい。立川岩治「唐木合木双木壺」この作品は象がんと技法を使っている。形全体としては二つに分けたところにおもひ切りの見られる。口の処理に一工夫ほしい。

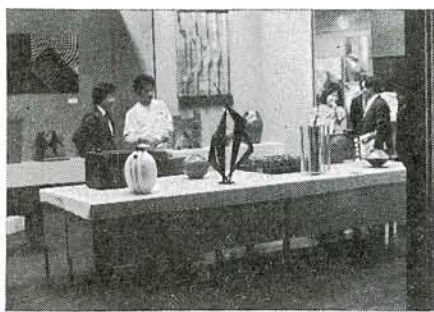
〈評〉田部隼夫

―染色・織物―

全般的には布地の材質感を踏まえながらも最終的には色の構成が大きく左右する作品の可否の評価は特定の生活空間に活かすべく制作されたこれらの作品にとっては困難な事である。

―着物―

着物が今日の流通機構に乗った市場性と展覧会作品としてのものとが混在する状態は陶磁器と同様の状態にある。その中の作品としての着物は思い切った独創的



な解釈と発想に基づいた作品であるべきと考える。岩山テル子「初楼」の作品にはその可能性を見出したい。関川菊代「訪問者」、市野のぶよ「想春」にはもっと個性を期待する。

―タビストーリー―

この分野は、糸、ロープをもっと自由な扱い方と材質の選択とが欲しい。同時に住空間に収まるための工芸性を明確に持たせたい。宮原ミユキ「ふあんたじ」の意欲は

認めるが材料処理に関する技術意欲が欲しい。伊藤啓子「White」には積極的な冒険を期待する。野崎南風子「CROSS & TURN II」のは材質をよく認識してまとめた作品だが主張を明確にする方法の研究に期待する。長尾一美「陽射し」には強い個性の主張が欲しい。

―パネル―

表面に出て来ない煩瑣な工程を経て完成するのが染ではあるがそこに安住することなく染料の多彩な活用も欲しい。庄司光江「聖堂」、笹島孝子「春の扉」共に布地の材質強調に工夫して欲しい。

〈評〉折原久左門

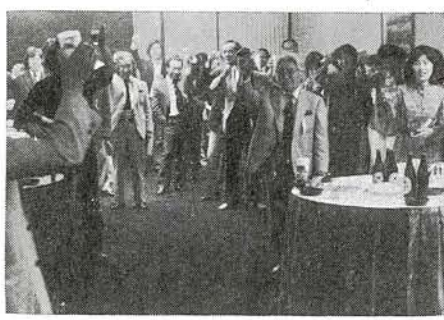
第36回全道展懇親パーティー

六月二十日（土）PM 6:00
於 ホテルサンフラワー
(南6・西3)

出席者（受付順）

高橋正敏、本田 泉、嵐 玲子、野崎南風子、高橋雅文、松隈康夫、岡沼淳一、本城義雄、関原範子、浅野武彦、折原久左門、今西直人、菊地章子、清水久美子、神田一明、栗本伸子、本郷 暁、北浦晃、砂田陽子、横山昭子、山本一也、小野寺紀子、伊藤寿朗、黒田栄一、阿部俊夫、清田 操、早坂玲子、石塚 綱、北山寛一、夏山亜貴王、千葉幸子、立川岩治、六家敬吉、青木淳子、本田明二、矢下英子、高木多美子、花田正雄、後藤庸也、長谷川忠男、山下脩馬、浅井英敏、竹岡羊子、北川 豊、伊藤啓子、中橋 修、岡沼秀雄、

工藤善蔵、柄内忠男、横田恵子、新寛裕一郎、福井正治、伏木田光夫、三上博子、木幡郁子、野本醇、砂田友治、厚島典子、一厚有徳、八島勝代、佐藤フサ子、小関恵久子、及川富雄、柳 悟、望月正男、山口惣市、国松 登、高橋三加子、谷口一芳、池田正之助、岸本裕躬、門馬よ宇子、渡辺禎祥、佐藤恵都子、中丸茂平、岩山テル子、渡辺行夫、佐藤 靖、佐々木悦子、菱 和子、寺崎源治、渋谷栄一、瀬戸節子、永井みよ子、渡



会純价、杉浦篤子、小池真理子、和田裕子、水落 啓、水落真紀子、田口丞二、八木知子、岡本早百合、艾沢洋子、大本 靖、大高 操、西村徳一、遠藤未満、木村富秋、木村真智子、箱根寿保、中谷紀子、福井路可、米沢由紀、川田静子、佐久間恭子、増子美代子、村元俊郎、小元ヤニ、石川康夫、浅川茂、村原脩、松井多恵子、浅野 悞、成田勇吉、壺井孝雄、鎌田選

全道展・図録・ZEN等への意見・要望・質問など

●全道展の作品陳列について。今年の全道展が無事終了したことは真に同慶に耐えません。ただ今年も作品の陳列におかしな点があると聞き事を知りております。つまり、陳列の計画があいまいで、作業員が適当にやっているのではないかと云うのです。陳列計画をきちんと決め責任者ははっきり決めて作業員が勝手に作品の掛け替えをしないようにきちんとしてほしい。ZEN等の中で今年の審査の様子、展示の方法等を明らかにしてほしい。いつものことながら陳列については誰が計画し誰が責任者なのかははっきりしない。審査が厳正に行なわれているのに、更に大切な作品陳列がいかげんでは、展覧会の効果が半減してしまう。せまい会場を上手に使ってより以上の効果を挙げてほしい。それにはつまらぬ私情は禁物。

平取町・大友一夫
(答) 今年度の作品陳列については36回展運営の役割分担表を審査会場と、会報にその委員(十一名)を明記してありますが、この委員が担当責任者でありま

す。会場構成係には、会場設営の図面作りから陳列作品の壁面決定までの仕事を担当会員がやっており、それ以外の会員は陳列の権限はなく担当会員の指示により手伝いをするのみとなっています。

入選作品は会場搬入の際に担当会員が部屋別搬入の指示で、大きな、受賞作、傾向等により振り分けし、会員、会友作品は、傾向、色彩、大きさ、壁面の効果等により適切な部屋と壁面に振り分けられています。御存知のように近代美術館の壁面は、全道展の作品数を見易い状態にするにはその限度を越えた会場であり、入選作品と会友作品の一部二段掛けにせざるを得なくなっています。御指摘の勝手な担当者の掛け替えをしているとの点ですが、以上のような諸条件から、少しでも見易い会場効果となるよう再三にわたって検討し、最初の壁面割当から何回もの作品移動が数時間も費やされて行なわれています。勿論、会員以外の者には一切移動させておりません。陳列は、非常に複雑な諸条件、問題を抱えていることは確かです。現段階では完璧な陳列の実態とも言えませんが、今後今後充分研究検討をしてゆくよう努力します。

(事務局)

● 第36回展水彩部門は入選5点の目標に達せず残念、37回展は5点以上を期待したい。水彩の方頑張ってください。

● 今年は会期日が早まり、手がいので出品出来ない所でした。今後の会期は一定しているのでしょうか。

札幌・池田正之助

● (答) 美術館側で期日の固定化を望まなため、六月より八月までを見たとする以外固定化が出来ませんでした。来年から市民ギャラリーで開催の場合も現時点ではまだ細案未定のため確答が出来ません。今しばらくお待ち下さい。(事務局)

● 今年は東京旺文会展と同時期でありましたので審査に出展出来ませんでした。それで会費もまだ納めておりませんが、新年度の会費を請求して下さい。金

額、送り先宛名等、尚振替用紙がありましたら送って下さい。幸甚です。(全道展会費納入のための振替用紙)

● いままで終わったところの巡回展の様子を簡単にでも載せていただければ幸いです。

函館・天野宮蔵

● 図録について、出品者全員の写真が掲載されるようになってから、余分に図録を購入して入選お祝いのお返しに使っています。入場券について、入選者に無料招待券何枚か発行出来ないものでしょうか。又前売券の発行もあわせて検討願います。(遠方に郵送するので、いつも会期が始まるようになってしまい落着きません。どうぞよろしく願います。)

札幌・佐藤節子

● 従来のアトリエ訪問が仕事場の訪問になっただけで、特に内容的に残念ながら変化がありません。

函館・近堂隆志

● 図録の名前の活字がまちまちなので統一してほしいのですが、よろしく願います。

札幌・艾沢祥子

● 会友作品の寸評もほしいと思うのですが……。

音更・岡沼秀雄

消息・近況など

● 8月4週間、アメリカへの旅をして参りました。日本人は日本人らしいプロパーションを持つ文化を生み出したが、プロパーションの異った外人が、体質的にどんな文化を生み出したか見るのをたのしみにしております。

東京・北村善平

● 帯広では四年ぶりに巡回展を復活させることになり、今実行委員会は、その準備で多忙である。今年の帯広・十勝巡は、思い出しのごく好成绩で息吹か返す健康である。入選十回目に浅川茂君が、奨励賞・岡沼淳一君が新会員と

なり、新人若手を含めて巡回展では、地元から十四名が出品できるのは最高の年で、今年には筆者も四年ぶりに本展に出かけ、懇親会にも出席し、会費負担しない位飲み、騒ぎ久しぶりに多数の仲間の方々とお会いし、語り合いいつもの全道展の熱気を感ずる満足でした。翌日美術館の飯事務所に邪魔し、ある会員の方から「〇〇さん絵も若いのだから来年は頭髪を真っ黒にして来て下さい。」「……」。来年も更に帯広・十勝勢ががんばります。意欲を燃やしています。

帯広・渡辺慎祥

● 健康です。しかし体力の減退・眼の疲れ易さを感じます。今のうちに、いい仕事をしなければならぬと思います。

東京・田中忠雄

● 田辺三重松画集の出版を祝う会
七月二十日、午後六時より 函館市五
嶋軒 駅前支店。

函館・三箇三郎

● 四年ぶりの帯広巡回展の準備で本業(?)をそっちのけで前売券を売り歩いたり広告を集めたり、連絡や交渉に走り回っています。今年出品者(会員・会友を含めて)が十四名となり、十年ぶりに力が増強されました。帯広の全道展ファンのために頑張ります。くわしいことは次号のZENで……。

音更・岡沼秀雄

● 外国に住むと、愛国心が燃えると言う程でなくとも、日本を見直したり、良い所を一生懸命探すようになる。光琳、宗達、歌麿、写楽、春信、北斎など日本のどこに出しても超一流、立派な日本の現代洋画だって……なども思いたいのだが……。日本人は感覚が良く、すぐに世界の現代絵画思潮とか、パターンとか、諸々のことに創敏だと思われ、新しいものと言う創作の源流の開拓精神に自ら酔いすぎるのか……。僅かに一〇〇年位の油絵伝統の負しなのか、残念ながら作品としての高い価値のある作品は、本心に酔い。パリの印象派の美術館の中に、誰れ彼れと日本人の絵を思い浮べて見ても、出て来ない。藤田嗣治

さんの正しい評価を持った人は生前本心に酔った。現代では藤田さん位、日本人として世界的評価の高い人はいない。私は思う、日本人は「作品の完成度」を大切にしないで、流行の先頭で旗を持って走っている。カッコウの良いのが、好まらしいが、もっと作品自体の、高い完成度を重視しないと、いつまでたっても、良い作品は、生れないと思うが如何だろうか。

一九八一・七・十八
東京・松島正幸

● 長かった寒冷、雨、霧の季節がやっと終わった感じで、しきりに花や風景のスケッチに歩いています。九月には鶴川で版画の講習会を催す予定です。

苫小牧・浅野武彦

● 九月に娘さんをもうごうことになりました。これで絵に専念出来る……。がんばらねばと思っています。

札幌・安木尚博

● 今春急病でその後毎日通院療養しています。

函館・東政雄

● 七月大同ギャラリーの個展を終え又新しい仕事をはじめています。

札幌・八木保次

● 四月・七月、三月月間パリで制作してきました。フランス人の家庭に下宿し充分たのしみました。又精神病院にて芸術療法の研修もうけてきました。とてもよい時期に行き、よい絵をたくさん見ることができました。

札幌・川本ヤスヒロ

● 銅版を刻むクラシクな職人の技法を逆手にとって現代社会の中の我々の風景をえぐり出す仕事を続けたいと思っています。

室蘭・大高操

● ここ室蘭では七月は毎週どこかで祭があり、にぎやかこの上無しですが絵を見る事の楽しみを忘れてしまい、そう、潮の臭いはしても芸術の臭いのしない不思議な街です。どなたか活動なさっているグループ等を知っている方、Z E

道都さっぽろの中心に
美と芸術のひろば

アートギャラリー さいとう

札幌市中央区南1条西2丁目⑤隣
丸一ビル2F T 011(222)3698

貸ギャラリー予約受付中



〒060 札幌市中央区南3条西1丁目
和田ビル2F ☎222-4788

N誌上で御案内下されば良いのですが。
● 彫刻部、新国美津氏(苫小牧出身)東京在住、当市沼の端ジョブアインに子供像を建立し、その記念に彫刻作品展を七月二十二日から二十七日まで同店で開催好評でした。 苫小牧・遠藤ミマン
● 元気でいます。 函館・池谷虎一
● 鉦路は夏というのに真夏日もなく特有のガスで毎日ゆううつな今日この頃です。 鉦路・増田邦博

個展グループ展案内

- 北斗会展 秋山・葛・伊藤寿朗等参加
8/17~8/22 大同ギャラリー(札幌)
●岩船修三個展
8/25~9/1 森屋デパート(函館)
●大本靖個展
8/31~9/5 時計台ギャラリー(札幌)
●銅路アトリエ彫刻集団展 増田参加
9/1~9/15 銅路市福祉会館(銅路)
●徳九滋個展
9/7~9/12 時計台ギャラリー(札幌)
●伏木田光夫個展
9/14~9/19 時計台ギャラリー(札幌)
●押川清個展
9/22~9/28 パークホテルギャラリー(札幌)
10/18~10/23 東急日本橋ギャラリー(東京)
●岸葉子個展
9月下旬 エルム画廊(札幌)
●野本醇個展
9/28~10/3 時計台ギャラリー(札幌)
●北川豊・遠藤ミマン二人展
9/29~10/4 うけかわ画廊(帯広)
●斎藤一明彫刻展
9/28~10/3 大同ギャラリー(札幌)
●森谷一夫個展
10/5~10/10 時計台ギャラリー(札幌)
●柄内忠男個展
10/12~10/17 文芸春秋画廊(東京)
●版と7人展 渡会・渋谷等参加
10/12~10/17 時計台ギャラリー(札幌)
●長谷川忠男個展
10/19~10/24 時計台ギャラリー(札幌)
●戸次正義個展
10/22~10/27 いい画廊(函館)
●女流五人展 八木伸子参加
10/27~11/1 銀座三越催場(東京)
●武田忠子個展
11/2~11/7 時計台ギャラリー(札幌)
●玄の会展 柄内・砂田・本田参加
11/2~11/7 時計台ギャラリー(札幌)
●小川原信個展
11/9~11/14 時計台ギャラリー(札幌)
●木村訓丈個展
11/11~11/16 いい画廊(函館)
●遠藤ミマン個展
11/16~11/21 時計台ギャラリー(札幌)
●原義行個展
11/16~11/21 時計台ギャラリー(札幌)
●水野スミ子個展
11/23~11/28 時計台ギャラリー(札幌)
●国松登個展
11/30~12/5 時計台ギャラリー(札幌)
●小川洋子個展
12/7~12/13 東京セントラル絵画館(8F)(東京)
●北海道版画協会小品展 尾崎等参加
12月上旬 大同ギャラリー(札幌)
●山口惣市個展
12/14~12/19 時計台ギャラリー(札幌)
●諏訪田勝衛個展
来年1月予定 時計台ギャラリー(札幌)

尾崎 志郎 千〇六〇 札幌市中央区北一条東八丁目 湯谷ビル五十一号
伊藤 聡 千〇四一 函館市西旭岡町二丁目一三
小沢真理子 千〇五九〇九 白老郡白老町字白老末広町五一九一四
藤井 高志 千〇六一一一 札幌郡広島町若葉町四一三六
斎藤 洪人 千〇一三七(二)〇四二九
崩 玲子 四(九月三〇日より) 電話局番変更八七一を八六四へ(九月三〇日より) 右に同じ

住所・電話番号・呼称変更と転居

安田侃会員代表筆
美唄・佐野 喬(義兄)

羽山 欣周 千〇四七 小樽市清水町二三
安木 尚博 千〇〇三 札幌市白石区本郷通七北二一 本郷サリハイツ五一(一〇月より)
八木 伸子 千一七 東京都豊島区千早町二一
町二一
千〇三(九五七) 八四三七
千〇六四 札幌市中央区宮の森二一七
千〇一(六二二) 八三五八(東京と札幌併記)
和田 雅子 千〇六四 札幌市中央区宮の森一〇一四

訂正

第36回展図録訂正

●P四二 題名「嶺」を「嶺」に。
●P一四 題名「顔」を「顔」に。
●P三一 松島正幸住所中野区鷺宮を中野区上鷺宮に。
●P四六 大谷友子は大谷久子に。
●P一〇 第五回展覧会推挙天野五郎は天間正五郎に。
●P二五 第三回展覧会金子幸正退会備考欄追記。
●P二八 第33回展覧会長谷川晶退

お知らせ

●八月七日の在札幌市会議員会で次年度の新会務委員が次の如く決定しました。全道展事務局局長渡会純价、同次長(会計担当) 池田正之助、委員伊藤寿朗、岸本裕躬、佐藤 靖、竹内 豊、谷口一芳、長谷川忠男、伏木田光夫、藤島清士。
●会務委員三年、事務局次長二年と、皆様の協力を支えに、無事責任を果たすことができましたが、三十六回展終了を機に、次の方にバトンタッチさせていただきます。寝てさせていただきますが、私にとってはよき試験の場であつたと思います。改めて御協力感謝致します。

おねがい

全道展会員、会友で病氣入院等の方を知った場合は、その病状など事務局までお知らせ下さい。

●第33回学生美術全道展は、9月3日(木)より8日(火)まで札幌市中央区パレットで開催。作品搬入は8月30日(日)札幌市民会館。
●第36回全道展授賞者招待展 主催 全道美術協会 10月19日より24日まで札幌大同ギャラリーに於て、今年度の受賞者の新作を招待出品してもらい奨励する企画展です。
●来年度、第37回全道展の会期、会場について。来年度より全道展の会場が、札幌市民ギャラリーに変更する予定を持っていますが、いまだ市民ギャラリー側の貸与条件等の明示がないので決定しかねています。ほぼ変更できると思いますが、従って会期も決定されていません。(八月三日現在)まもなく当局より指示があると思われます。当協会としては六月より八月頃を希望中ですのでお含み置きの上制作下さい。

個展・グループ展の貸額縁と公募展の搬入・搬出の代行作品運送に是非御利用下さい(多少にかかわらず御連絡下さい)

美術展覧会貸縁・美術品扱専門店

北陽美術

〒061-24 札幌市西区手稲前田657-110

☎ 011 (682) 6340